

# 行政報告

市議会9月定例会が8月28日に招集され、小畑市長が行政報告を行いました。その中から、主なものの要旨をお知らせします。

## 東日本大震災への対応

被災地支援の一環として、秋田県が7月21日から9月2日まで実施する「ふくしま子どもリフレッシュ支援事業」により、これまでに1世帯4人の親子を受け入れました。

また、東京電力への損害賠償請求は、福島第一・第二原子力発電所の事故で生じた損害について、秋田県や県内18市町、広域市町村圏組合などとともに、7月11日に第1回目の請求を行いました。請求額は、放射性物質の測定委託費、測定機器購入費、農産物検査事業への補助金等合計103万4775円です。今回は県の方針に合わせ人件費等を含めていませんが、精査のうえ次回以降に請求する予定です。

防災体制の整備としては、8月20日に市を調整役として自衛隊、大館警察署、市消防本部で構成する「大館市防災連絡協議会」を設立しました。災害発生時の迅速な救援活動や復旧活動を目指したもので、9月2日の防災訓練では、災害情報の収集・共有化訓練も実施する計画です。

## 本庁舎建設検討委員会の設置

東日本大震災を踏まえ、本庁舎の今後の在り方を検討する委員会を設置し、8月21日に第1回目の委員会を開催しました。

委員会は、広く意見を反映できるように、一般公募による3人、各種団体からの推薦による学識経験者3人、公共的団体等の代表者5人、これに市職員2人を加えた合計13人で構成されています。

今後、委員会は4、5回開催され、来年2月をめどに答申の予定です。

## がれきの受け入れ検討中止

がれきの受け入れは、現地の中間処理施設が稼働したことを受け、燃焼試験に向けた準備を進めていましたが、8月9日、秋田県から「環境省及び岩手県の決定に基づき、大館市にはがれき受け入れを依頼しない」との通知があり、受け入れの検討を中止しました。

市では、がれきの処理が被災地の早期復興の最重要課題であると認識し、

がれきの性状や分別の状況、放射性セシウムの濃度、異物混入の度合いを十分に調査・検証するなど、市民の安全確保を最優先としたうえで、一つ一つ必要な手順をしっかりと踏みながら、可能な限り迅速に対応してきました。今後は、市としてどのような支援ができるかについて、議会と相談しながら対応していきます。

## 大館市エコフェアの開催

リサイクルや省エネルギーなど環境に対する理解を深めるイベント「大館市エコフェア」を7月14日、15日の両日、大館樹海ドームで開催し、2日間で約2万3千人の来場がありました。



会場では、市内の環境関連企業を中心に、製品の展示やカタログの配布で事業を紹介しました。また、今年で6回目となる北東北最大規模の「マンモスフリーマーケット」や、間伐材で作った木製のがきを被災した大船渡市の小学生へ贈る「木はがきプロジェクト」、生活や住宅の構造に合わせた省エネを提案する「うちエコ診断」などを行い、多くの人でにぎわいました。今後も、こうしたイベントを通じて市民の環境意識の向上を図ります。

## 農作物の生育状況等

7月の高温・少雨により河川の水量がかなり低下し、圃場は全体的に乾燥・水不足の状況となっていましたがお盆前後の降雨により現在はほぼ解消されています。

水稲は、葉いもち病の発生は例年並みですが、カメムシの発生が多いことから、「コメ通信」等を活用し、病害虫防除の徹底や気象変動に応じた湛水管理について注意を呼びかけています。出穂盛期は8月4日と平年より1日早く、穂揃い、登熟ともにおおむね良好で、草丈は短く、茎数は多く、葉色は平年並みとなっています。

一方、平成23年度から本格実施となった農業者戸別所得補償制度については、個人1881件、法人13件、集落営農17件、合計1911件の加入申請があり、主食用米の作付面積は昨年より33ha増の3196haとなりました。

野菜は、7月の干ばつ傾向により各作物とも生育の遅れが見られ、全体的に数量減の傾向にあります。主な品目では、枝豆は平年より2日早い7月2日から出荷が始まり、品質は良いものの収量が少なめで、価格は高めで推移しています。アスパラガスは、少雨の影響で品質の低下が見られ、収量も少なめとなっています。

果樹は、ナシ、リンゴともに、開花時期・開花量・結実率のいずれも、ほぼ平年並みの状況です。